

経 済 建 設 委 員 会 記 録

1 日 時 令和8年6月22日(月)
午前10時00分 開会
午前10時27分 閉会

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員

委員長	野 田 明 里	副委員長	高 塚 広 義
委員	加 藤 昌 延	委員	越 智 克 範
委員	井 谷 幸 恵	委員	小 野 辰 夫
委員	仙 波 憲 一		

4 欠席委員

なし

5 説明のため出席した者

・副市長	松 田 雄 彦		
・建設部			
部長	高 橋 宣 行	総括次長(都市計画課長)	町 田 京 三
道路課長	黒 田 雅 人	道路課技幹	庄 野 仁 規
・上下水道局			
局長	玉 井 和 彦	総括次長(工務課長)	清 水 克 徳
企画経営課長	三 並 弘 昭	施設管理課長	由 藤 貴 文
工務課参事	亀 井 英 明	工務課技幹	檜 垣 慶

6 委員外議員 伊 藤 義 男 渡 辺 高 博

7 議会事務局職員出席者

議会事務局次長 松 平 幸 人 議事係長 村 上 佳 史

8 本日の会議に付した事件

別紙付託案件表のとおり

9 会議の概要

○ 開 会 午前10時00分

●野田委員長：開会挨拶

○松田副市長：挨拶

◎建設部関係

◇議案第48号 令和8年度新居浜市一般会計補正予算（第1号）

○町田建設部総括次長（都市計画課長）：説明

< 質 疑 >

●仙波委員：カーブミラーだけを対象にするのか。

○黒田道路課長：カーブミラーと道路標識を対象にしている。

●仙波委員：市内にカーブミラーと道路標識はいくつあるのか。

○黒田道路課長：カーブミラーは約3,300基、道路標識が100基程度あり、合計3,400基程度となる。

●仙波委員：これだけの費用をかけるのだが、一人分の人件費をつけて、1年間で点検するほうが安くなるのではないのか。

○黒田道路課長：実績として、今までのカーブミラーの点検においては、1日で20基程度の点検を行うことができていた。今回、このシステムを導入することにより、1日で60基程度の点検を行うことができると見込んでいるため、人件費の削減や作業効率の向上が図られると考えている。

●仙波委員：このシステムを導入しても、現地まで人が見に行くことになるのか。

○黒田道路課長：今回のシステムに関しては、スマートフォンで撮影した写真を用いて点検を行うものであり、現地に行く必要はある。

●仙波委員：システム使用料として500万円を払うことになるが、本当にトータルの費用は安くなるのか。

○黒田道路課長：維持管理コストについては、低減が見込まれると試算している。

●高塚副委員長：システム使用料が500万円で新たな試みだと思うが、システムの選定に関して、今回のシステムを用いている先進地を参考にして検討されたのか。また、システムの維持管理について、今後の維持管理費用はどの程度を見込んでいるのか。

○黒田道路課長：北九州市でA Iを用いたシステムの先行事例があり、それを参考にして、導入の検討を行っている。

次に、維持管理費の見込みについてだが、今回の補正では総額で650万円を計上しているが、そのうちシステムの使用料として500万円を見込んでいる。年間700基程度の点検を行い、今後5年間をかけて、市内にある約3,400基の点検を行いたいと考えているため、システムの使用については、5年間にかけて500万円を見込んでいる。

●高塚副委員長：システムのための維持管理費は、最初にシステム整備をしておけば、毎年100万円ずつかかるということではないのか。

○黒田道路課長：システムの使用料については、増減することなく年間500万円がかかる見込みである。

●高塚副委員長：北九州市でカーブミラーの点検システムを採用しているということで、このシ

システム以外にも優秀なシステムがあると思うが、ほかのシステムについても検討したのか。それともこのシステムだけの検討で実施を決めたのか。

○黒田道路課長：システムの導入に当たり、いろいろなシステムがある中で、道路施設、道路付属物の管理に関して、新居浜市にとって何が有効であるかという点を、トータルで比較検討をしている。現在導入予定のシステムのほかにも、検討したシステムはあり、また北九州市の事例は先行事例であり、非常に参考にしたところである。

●越智委員：上部東西線改良事業（街路）について、予算額と比べると補正額が少額であるが、この補正額の理由と、少額の補正をする必要性があるのかを教えてください。

○黒田道路課長：今回の補正については、国の補助内示が当初よりも800万円多かったため、800万円増額の補正を計上している。国に対しては、この800万円の増額分も含めて、前年度から要求していたが、今回補正を行わないと執行できないので、補正を行うものである。

●越智委員：800万円の具体的な内容は、補正として新たに出るような項目ではないということか。

○黒田道路課長：この800万円の使い道については、上部東西線の街路事業として、随時、工事を発注して、事業を推進しているところであるが、見込みとしては、萩生治良丸地区における山の切土工事部分の推進のために充てたいと考えている。

< 討 論 > なし

< 採 決 > 全会一致 原案可決

休憩 午前10時13分／再開 午前10時15分

◎上下水道局関係

◇議案第50号 令和8年度新居浜市公共下水道事業会計補正予算（第1号）

○清水上下水道局総括次長（工務課長）：説明

< 質 疑 >

●越智委員：補正予算8,774万6,000円のもう少し詳しい内容と補正を行う理由を教えてください。

○清水上下水道局総括次長（工務課長）：例年であれば、国の内示は要望額を下回るような内示であり、令和7年度は60%程度の内示率であったものが、今年度は100%の内示率となっているため、補正を行う必要がある。整備内容については、先ほどの説明では神郷地区などの汚水管渠の整備と説明したが、神郷地区では県道壬生川新居浜野田線沿いのファミリーマート付近の3路線の整備を予定しており、そのほかには、萩生旦之上地区、中萩コープタウンや又野三丁目、旧県道の南側の整備を行う予定としている。

●越智委員：今回の補正予算については、企業債と国庫支出金が充てられているが、これは国庫支出金で足りない部分を企業債で補っているということか。どのような割り振りになっているのか。また、建設改良費は8,774万6,000円で、企業債と国庫支出金を足しても、7万3,000円足りず、それは補填されていると思うが、なぜ7万3,000円だけを補填されているのか。

○三並企画経営課長：国費と企業債の内訳についてだが、国庫支出金は補助率が事業費の2分の1であり、残りが企業債になるが、企業債は10万円単位になるため、その端数分として7万3,000円が発生しており、留保資金で充当することになる。

●越智委員：補填財源として利益剰余金を1億5,000万円使っていると思う。これにより、利益剰余金の残高が大幅に減少しているが、今後に影響はないのか。

○三並企画経営課長：予算書6ページのキャッシュフロー計算書において、現金の流れにはなるが、今回の事業費に対して、国費と企業債で大半は賄われており、一般会計でいうところの一般財源的なものが7万3,000円に当たる。今回の補正に伴って、資金のほうに大きな影響は及ぼさないと考えている。

●越智委員：予算書12ページに補填財源という表があり、利益剰余金の中から1億5,000万円を補填している。残額は1,887万8,000円となり、非常に減っていて、減債積立金もゼロになっているが、特に問題になるようなことではないのか。

○三並企画経営課長：減債基金積立金に関しては、当初から1億5,000万円を補填する予定としていた。今回の補正として影響したところと言うと、消費税資本的収支調整額が398万8,000円増えたことと、それに伴い損益勘定留保資金が約400万円弱減ったというところであり、今回の補正予算では大きな影響は及ぼしていない。

●越智委員：今回の補正でということではなくて、既決された予算であり勉強のために聞いているのだが、利益剰余金が1億5,000万円減少することに関して、上下水道局として今後問題にならないと考えているのか。

○三並企画経営課長：キャッシュフロー計算書に記載があるように、資金期末残高が7億円程度残るような形になっており、当面の資金繰りについては対応可能な状況と考えているが、一般会計からの繰入金に依存しているところがあり、10月から予定している料金改定や今後の整備方針などで、一般会計からの繰入金に依存している状況を今後解消していくような形で、きちんと管理をしていきたいと考えている。

●井谷委員：神郷地区と萩生旦之上の辺りを整備するという説明であったが、今年いっぱい工事になるのか。

○清水上下水道局総括次長（工務課長）：今年度に整備予定の地区となる。

●井谷委員：どの程度の規模を整備するのか。

○清水上下水道局総括次長（工務課長）：今年度の整備により、全体で約12ヘクタールの区域が供用開始となる予定である。

< 討 論 > なし

< 採 決 > 全会一致 原案可決

○ 閉 会 午前10時27分 閉会

経済建設委員会付託案件表

令和8年6月22日

○建設部関係

議案第48号 令和8年度新居浜市一般会計補正予算（第1号）

第1表 歳入歳出予算補正中 ページ

歳出 第8款 土木費 5・27~29

○上下水道局関係

議案第50号 令和8年度新居浜市公共下水道事業会計補正予算（第1号）